

よりよく生きる

各学年の人権学習（参観日）の紹介（3年生）

小春日和（読み物資料）



【資料のあらすじ】

被差別部落出身であった崇司。当時付き合っていた恋人の裕美に、悩んだ末、自分の出身を打ち明ける。それから三年が経ち、崇司と裕美は恋を实らせ結婚へと…。ところが、裕美の両親は大反対。そこから裕美は、地域の学習会に参加するなど、同和問題と向き合っていく。崇司は、二人の愛情の確かさと将来の夢を懸命に語る。大阪の伯母夫婦の理解と協力もあり、裕美の父が、「結納は二月でいいかな。」とつぶやく。それから十年。周囲からも祝福された結婚式をあげ、今では家族三人が楽しい日々を送っている。

なぜ、崇司と裕美は、幸せな結婚ができたのだろう

- ・崇司が裕美への愛情を持っていたから。裕美も反対されて、初めて崇司の辛さが分かり、それに向き合っていこうと思ったから。妹が励ましてくれたり、自分たちを応援してくれたりする人がいたから。
- ・裕美の伯母夫婦が、崇司の話を真剣に聞いてくれて、崇司の明るく誠実な人柄をよく理解し、「お父さんに話をしよう」と言ってくれたことで、お父さんたちも理解して、幸せな結婚ができたんだと思います。
- ・裕美が同和問題について深く向き合い、お父さんやお母さんに納得させたからだと思います。部落差別の問題について知り、じっくり考えることもできたから。

差別のない社会を実現するために、自分にできることは何だろう？

- ・相手の立場になってしっかり向き合ってみて、自分には何ができるのかを正確に判断して実行してみる。一人ではなく、周りの頼れる人に助けを求めることも大切。
- ・差別に気づき、この物語に出てきた伯父や伯母のように相手の人柄を理解して、差別に対して立ち向かえる存在になっていくこと。
- ・「部落差別」という言葉を知るだけでなく、差別について詳しく学んだり、差別を知らない人に伝えたりすることが大切だと思います。まず、自分が差別につながることをしていないか、しっかり考えることで、小さな差別はなくなっていくと思いました。
- ・自分は、差別をしないで、寄り添うことが大切だと思います。みんな一人一人大切な人だから、差別なんてあってはいけなないとみんなに伝えたいです。正しい情報を知り、それを伝えていくことで、差別はなくなっていくんじゃないかなと思います。

今回の資料は、結婚差別に関する内容でした。他人や自分の人権を大切にするということは、人と人とのつながりを豊かにし、周囲のみんなが幸せに暮らしていくことにつながっていくのかもしれない。